

熱川温泉病院 佐藤 翠(理学療法士・主任)

功 績	新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に伴う病棟スタッフの不足を、他職種でありながらも積極的にサポートし、早期収束及び病棟機能の継続に貢献した功績。
推 薦 者	小山内 隆(リハビリ部長)
推 薦 理 由	当院で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、職員の欠勤者が相次いだ病棟のピンチにリハビリ部のスタッフたちが積極的に応援に入り、ケア業務を担ってくれました。おかげで、病院の危機的状況をワンチームで乗り越えることができました。なかでも主導的に関わってくれたのが主任の佐藤でしたので是非理事長賞にご推薦申し上げます。

内 容

3月中旬に発生した新型コロナウイルスのクラスター感染で、8階病棟の職員6名が陽性となりました。職員の陽性者や濃厚接触者は一定期間の自宅療養となりスタッフに欠員が生じたため、8階病棟へ他病棟から人員補充し、配置された職員を専従にしました。そして、当然不足する他病棟の人員確保のため、日頃から患者さんと接することが多いリハビリ部にケア業務の応援が要請されました。

入職7年目の主任の佐藤は、普段の病棟リハで堅実な仕事ぶりから、リハスタッフは勿論、病棟スタッフからも信頼が厚い存在です。今回のクラスターでは病棟スタッフからケア業務の指導を受け、日勤で食事・トイレ・入浴の介助にあたりながら、慣れない介護で戸惑うリハスタッフをフォローし、勤務調整などの取り纏めを行いました。さらに、率先して夜勤にも入り、人員確保に苦勞していた病棟を助けました。

リハビリスタッフの病棟勤務は4月上旬のクラスター収束まで続きましたが、おかげで看護部も安心して自らの仕事に専念でき、これ以上の感染拡大を防ぐことができました。病棟のNs・Cwからは「佐藤さんが病棟に来てくれて本当に助かりました!」「病棟応援ありがとうございました」といった感謝の言葉が聞かれています。

佐藤にこの時のことを振り返って貰いましたが、「リハビリ業務が十分できない中、患者さんとお話できる機会が増えたり、日中と夜間の患者さんの体調や様子の違いに気付いたり大変勉強になった」「病棟のケア業務を教えてもらい、ケアワーカーの皆さんの日頃の仕事の大変さが理解でき、皆で困難を乗り越える中で職員同士の絆を実感することができたので、自分が成長する良い機会となった」と話してくれました。